4 防災の担い手を増やそう

防災を含む、地域活動全体に共通する課題として、高齢化やサラリーマン世帯の増加による「活動の担い手不足」「昼間活動できる担い手の不足」が挙げられます。

防災の担い手には、リーダーや経験をつんだエキスパートも必要ですが、気軽に参加できる役割を用意し、少しでも参加者を増やしていくことで、裾野を広げることも大切です。

① 若い年齢層を対象としたイベントを開催する

- **事例 27**　「防災力ステップアップキャンプ」の開催［西区　一本松まちづくり協議会］
- **事例 28**　中学生が多数参加する防災訓練［鶴見区　江ヶ崎町内会］

② 幅広い層を取り込むため、組織作りを工夫する

- **事例 29**　マンション内の同好会との協力関係［西区　ヨコハマタワーリングスクエア自治会］
- **事例 30**　若い人が参加しやすい組織作り［神奈川区　子安通三丁目自治会］
- **事例 31**　参加率を上げるための工夫［戸塚区　グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会］
- **事例 32**　防災活動への意識の高い人を公募する［南区　六ッ川地区連合自治会］
- **事例 33**　団塊の世代を取り込む「おやじの広場」［瀬谷区　阿久和北部連合自治会］

① 若い年齢層を対象としたイベントを開催する

ファミリー層が参加してみたいと思うようなイベント、子どもたちが楽しみながら学べるイベントなどを開催して、多くの人を集め、住民の意識を高めましょう。

事例27 「防災力ステップアップキャンプ」の開催

西区　一本松まちづくり協議会

一本松まちづくり協議会は、野毛山公園で「防災力ステップアップキャンプ」を開催しました。このイベントでは、子どもを持つファミリー層が参加しやすいように、身近な場所でキャンプを体験することで、災害時に役立つ知恵や工夫を楽しみながら身に着けてもらうとともに、防災に関心を持ってもらうことをねらいとしています。

- **パスタ・炊飯体験**：フリーザーバッグを使い、水と燃料を節約して簡単にパスタや米を調理できます。
- **たき火体験**：身近にある不要なものに火をつけて炊事、暖房、照明に役立てられます。
- **トイレ体験**：小さめのミカン箱にごみ袋をかぶせて、簡易のトイレを作ります。設置場所や遮蔽などの工夫が必要です。
- **飲み水ろ過体験**：浄水器を使い、泥水がきれいな水へ変身！
- **ハンモック体験**：大人、子ども、年配の方と年齢の隔てなく大好評の体験です。
- **テント・宿泊体験**：テントの設営からはじめます。テントのたたみ方も大切です。
- **湯沸し体験**：牛乳パックや松ぼっくりを燃料にして、ケリーケトルで湯沸しします。

ここがポイント

- **事前に、イベント計画書（開催日時、体験メニュー、安全管理体制、緊急連絡先等）を作成し、開催場所となる公園等管理者に事前に説明し、使用許可を得る必要があります。**
- **子どもたちの関心を引く楽しい体験メニューを入れておくことで、保護者や近所の方などが一緒に参加してくれることが期待できます。**
- **アウトドア用品は地域の中で持っている方を探しましょう。その方にスタッフとして手伝ってもらうことで、協力者・担い手を増やしていくことにつながります。**

防災訓練のマンネリ化、参加者の固定化・高齢化は、どの地域でも課題かと思います。その課題に対して、このイベントは、積極的に“楽しみながら備えよう”という切り口で働き掛けるものです。

実際に若い世代も参加して、町内の皆様が楽しみながら団結していて喜ばしいです。

一本松まちづくり協議会　河野 史明さん

■参考　イベントチラシ

備えてますか?
朝焼けが見られるかも!?
テント宿泊体験者募集！
詳細は各町内会長まで
お尋ね下さい
どなたでも参加出来ます。
チケット フルセット ¥1,000-
有料単品　¥500-
無料でできるのもあります。
- 雨天中止 -
開催決定
10/18-19
防災、はじめよう! 親子で体験
防災力ステップアップキャンプ
会場：野毛山公園 芝生広場
18日10時～15時／19日10時～13時
suppotted by
STEPCAMP
私たちと
楽しみながら
備えませんか?
焚き火体験
薪で湯沸かし
簡単！一分間パスタ
雨水を飲水に
キャンプの知恵は、そのまま災害時の
いざという時に役立つものばかりです。
野毛山公園で、普段は絶対に出来ない
キャンプのあれこれを楽しみながら、
防災力をステップアップしましょう！
テントに寝転がってみよう!
ハンモックにのってみよう!
安上りなトイレをご紹介
簡単！ジップロック炊飯
主催：中本松まちづくり協議会　連携・協働団体・チケット配布元：羽沢西部自治会・西戸部二丁目第一自治会　イベント協力：ステップキャンプ

事例28 中学生が多数参加する防災訓練

鶴見区　江ヶ崎町内会

江ヶ崎町内会は、矢向中学校の生徒ら地域住民が要援護者を車いすに乗せて、避難場所である新鶴見小学校まで送る訓練を実施しました。防災訓練には 500 人を越える住民が参加しましたが、そこでは小学生もバケツリレーなどに参加しました。

要援護者を避難場所に送る中学生

小学生も参加したバケツリレー

ここがポイント

- 子どもたちの参加を学校任せにするのではなく、地域組織自らが企画運営する活動に学校が協力する連携体制を築きます。その際、ＰＴＡの協力は欠かせません。
- 子どもたちをお客さんにするのではなく責任ある立場を与えることで、自分の出番としての意識を持たせます。

中学生は知識や体力が成人に近づき、昼夜を問わず地域で生活していることから、災害発生時には減災の大きな戦力になります。

・自助共助の考えに基づき、地域の一員として自らが考え行動することができる。

・混乱の中にあっても、情報を理解し伝えることができる。

但し、減災の意識を中学生本人や保護者にどう植えつけるか、中学生と地域住民との交流をどうするか、という２点が課題であり、ＰＴＡとして保護者・地域・学校とともに考えていかなければいけないと思います。

矢向中学校ＰＴＡ　上田 雅弘さん

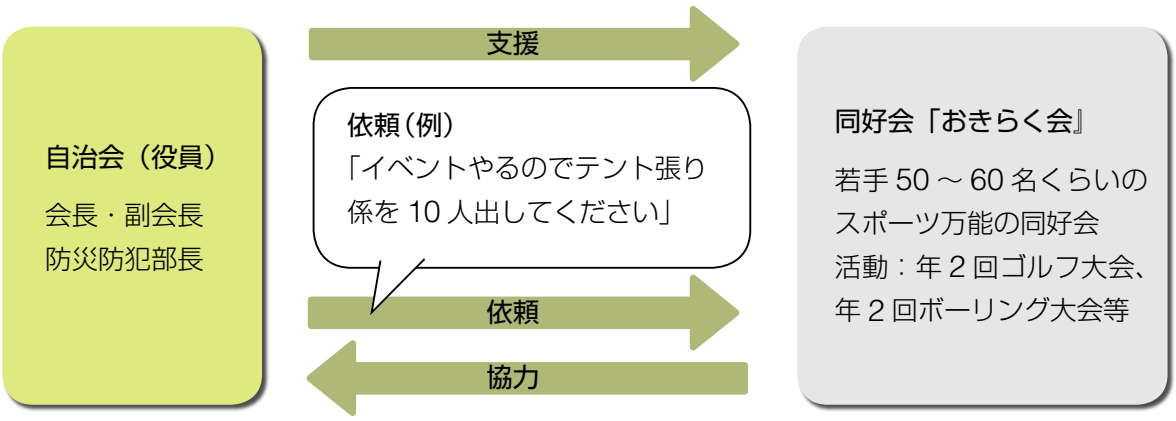
② 幅広い層を取り込むため、組織作りを工夫する

様々な年齢層に、気軽にイベントや訓練に参加してもらうためには、負担感の少ない活動を用意するなどの工夫や、柔軟な組織作りが必要です。

事例29 マンション内の同好会との協力関係

西区　ヨコハマタワーリングスクエア自治会

ヨコハマタワーリングスクエア自治会は、若い年齢層が多く所属する同好会とうまく関係を築き、防災の担い手を増やす仕組みを作っています。



ここがポイント

- **活動のテーマを気にせず、防犯活動や、福祉の見守りなど、防災以外の「まちの安心・安全」につながる取組も併せて進めることで、住民の絆を強化することができます。**
- **身近にある任意の活動からの相談にも積極的に乗ってあげるようにしましょう。**

なぜ、「担い手不足」が生じるのか？
それは、活動を立ち上げていないからです。
まず、具体的で、目に見える活動を提示することが必要です。活動が見えないと、担い手は集まりません。
はじめは 1 ～ 2 人の仲間がいればよいと思います。少人数でも、始めてみましょう。

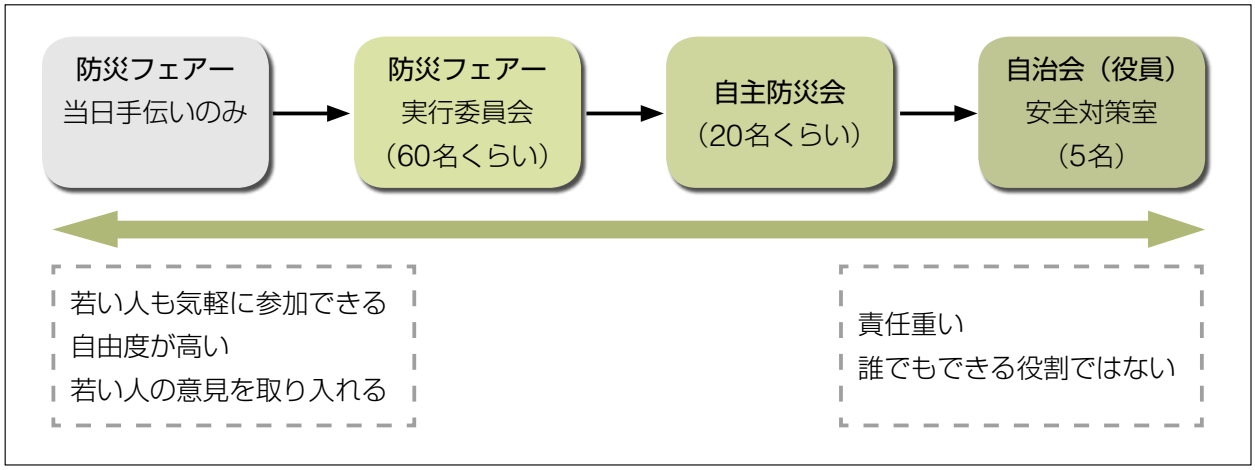
平安町町会　河西 英彦さん

事例30 若い人が参加しやすい組織作り

神奈川区　子安通三丁目自治会

子安通三丁目自治会では、防災フェアー（P14 事例 1 参照）のお手伝いを入り口にして、防災の担い手を増やしています。

家族みんなで参加できるフェアーでは、若い人が気軽に参加できる役割を用意して、多くの人を巻き込んでいます。気軽な役割から始め、時間を掛けて、責任ある役割をお願いするなど、きめ細かな配慮をしています。



ここがポイント

- **気軽に参加できる場を作り出します。**
- **仕事を頼むときは、できるだけ具体的に説明し、負担が少ないことを理解してもらいます。**
- **子どもの前で、お父さんお母さんがカッコ良く見える役割（「焼きそばを焼く」等）を用意します。**
- **楽しんでもらって、次回も参加してもらいます。**
- **若い人の意見を積極的に取り入れ、参加感を高めます。**
- **参加してくれる若い人の中から、人材を見つけて、責任のある役割に一本釣りします。**

若い人に、あまり負担をかけないよう工夫しています。防災フェアーで、楽しいことを分担してもらって、また参加しようという気持ちになるよう心掛けています。

最初は、「焼きそばの青のりをかける担当やってくれませんか？」とか、「お祭りの間、子どもの安全のため巡回してくれませんか？」とか、簡単な仕事を、できるだけ具体的に提示すると、安心して引き受けてくれます。

子安通三丁目自治会　増田 智代さん

事例31 参加率を上げるための工夫

戸塚区　グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会

グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会は、参加者の負担感を大きくしない工夫をして、若い世代の参加率を上げるよう心がけています。

女性も多く参加

幼児連れも

ここがポイント

- 参加者の負担感を大きくしない。
  （防災委員会は、概ね月１回・１時間半の定例会。防災訓練年２回。）
- 休日に設定する。
- 「これくらいならできるんじゃないかな」という活動を心掛ける。
- お祭りや、ボランティアでも少しずつ参加してもらいながら声をかける。

色々な行事で、「顔を出す人」「顔を出さない人」と二分化します。その「顔を出す人」と仲良くなって、声をかけて、少しずつ参加してもらう。

やっぱり、先頭を切って背中で汗を流している姿を見ると、人は応援してあげたくなる。だから、やる気がある人が始めて、一生懸命頑張る姿を見せることで、誘われたら「やってもいいかな」という雰囲気にすることが必要だと思います。

グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会　横山 清文さん

事例32

防災活動への意識の高い人を公募する

南区　六ッ川地区連合自治会

六ッ川地区連合自治会では、「チーム防災六ッ川」という独自の防災活動組織を設置しています。連合自治会の防災部長をリーダーに、19 ある単位自治会・町内会の各防災部長と家庭防災員で組織し、公募によって集まった運営スタッフ（コアスタッフ）を中心に、年間にわたり様々な活動を展開しています。

救命講習フェア

【ある年度の主な活動】

5 月・防災会議（アイスブレークなど）
7 月・横浜市民防災センター見学
9 月・救命講習フェア
11 月・連合「防災訓練」
11 月・防災ウォークラリー
1 月・避難所運営ゲーム（HUG）
3 月・今期事業の振り返りと意見交換

避難所運営ゲーム（HUG）

ここがポイント

- **地域活動に熱い思いを抱く人をリーダーに抜擢することが大切です。そして、組織全体の枠組に縛られず自由に動ける位置づけにしておくことも大切です。**
- **企画・運営に携わるコアスタッフは、地域組織での役職だけにとらわれず、防災活動への意識が高い人が就任する必要があります。そのためには、公募することも一つの手です。**
- **災害は男性の手が少ない時間にも起きるので、女性の力は大切です。コアスタッフにはできるだけ女性にも参加してもらいましょう。**

各単位町内会の防災部長は、なりたくてなった人ばかりではありません。そこで、チーム防災六ッ川では防災活動への意識が高い人を公募しました。10 名ほどが手を上げて下さり、この方々をコアスタッフとして具体的な取組を企画・運営しています。数名の女性も含まれており、女性ならではの視点も自然に意識されています。

六ッ川地区連合自治会　東梅 良成さん

事例33 団塊の世代を取り込む「おやじの広場」

瀬谷区　阿久和北部連合自治会

阿久和北部連合にお住まいの地域の男性たちに、「ついのすみかとなるであろうこの地域のことを、ビール片手に話し合ってみませんか」と呼びかけ、月１回の「おやじの広場」が始まったのは、2006 年４月のことでした。会社でもなく、家でもなく、自治会でもない、いろり端に集まって自由に語らい、地域のことについて話し合ううちに、地域に役立つことをやってみようと「おやじの広場」が結成されました。自治会や社会福祉協議会などの組織とは独立したグループです。

それまで地域との関わりがほとんどなかった方が、「おやじの広場」をきっかけに、それぞれの自治会で防災活動に携わるようになった例もあり、人材発掘の場につながっています。

・おやじの広場の活動

小学生の長屋門施設見学会では、竹笛製作のお手伝い。
「もったいない」精神を生かし、廃材を利用して手づくりのおみこしを制作。
七夕の灯篭祭りの際には、約 900 基に上る灯篭を手づくりで制作。

ここがポイント

- 呼びかけは「地域のことをビール片手に話し合ってみませんか」
- 自由なグループなので、リーダーもいなければ名簿もありません。

きっかけは地域福祉計画づくりでした。これから定年を迎える団塊の世代の男性たちを地域の中に取り込むことを考えました。呼びかけに応じて集まった方たちは、自分がどこの自治会に属しているのかも分からない人がいました。自治会のことや連合のこと、行政との関係などについて、いろんなお話しをしました。そしたら、もっと地域の中で何かしなきゃいけない、地域の行事の手の足りないところ、つまり隙間を埋めるみたいな役割を担ってくださるようになり、今では「おやじの広場」なしに地域の行事は成り立ちません。仲間も 30 人にもなりました。

谷戸自治会　清水 靖枝さん